

## 5 優秀研究業績全国水産試験場長会会長賞表彰式

### (1) 審査委員長経過報告・講評

全国水産試験場長会副会長 木村 稔

審査委員長の木村でございます。審査委員会の経過及び結果についてご報告します。規定に基づき、3つのブロックより推薦のあった各表彰候補について、10月3日に東京都島しょ農林水産技術総合センター会議室において会長賞表彰審査委員会を開催し審査を行いました。

審査にあたり、各担当者からリモートからのプレゼンテーションによって研究業績の内容が発表されました。推薦調書と事前の質疑応答、当日のプレゼンテーションをもとに、全国のブロック幹事から選出されました審査委員長と5名の審査委員により規定に基づき、「地域の水産業の振興に貢献するか」、「試験研究の成果が今後の水産試験研究の発展に寄与すると認められるかどうか」、主にこの2点を評価の視点として審査を行いました。その結果、いずれも令和5年度全国水産試験場長会会長表彰を受けるにふさわしい業績であると判断しました。

先ず、海面部会 西部日本海ブロックから推薦されました、京都府農林水産技術センター海洋センター・研究部に所属しています船越 裕紀（ふなこし ゆうき）さんによる「閉鎖性海域における冬季の中層貧酸素発生機構の解明」

—二枚貝養殖の被害防止に向けて— になります。

京都府久美浜湾の貧酸素水塊の発生・解消は偶発的な現象ではなく、メカニズムが存在することを明らかにした点により、将来的にこれらへの対応が可能になると期待されます。また、冬の継続的な淡水供給が成層の維持と貧酸素化に影響することを明確に示した点については、久美浜湾だけではなく、環境変動（温暖化・大雨等）によって他海域でも発生し得る普遍的成果であり、地域の水産業の発展に大きく貢献するものと認められました。

次に、海面部会 東海ブロックから推薦されました、愛知県水産試験場 漁業生産研究所に所属しています日比野 学（ひびの まなぶ）さんによる「愛知県海域におけるアサリ資源の減少要因と回復策に関する研究」です。

愛知県の重要水産資源であるアサリ資源の減少要因について餌料環境の影響が大きいことを明らかにするとともに、砕石による漁場造成の事業化や生分解性網袋を活用した漁場管理の成果も期待されている。さらに、研究成果を漁業者へ積極的にフィードバックすることで漁業現場に浸透し、資源管理や漁場管理に活用されている。こうした一連の取組は、アサリ資源回復のモデルケースとなることが期待され、地域の水産業の発展に大きく貢献するものと認められる。

最後に、内水面部会 関東甲信越ブロックから推薦されました、長野県水産試験場

諏訪支場に所属します 川之辺 素一（かわのべ もとかず）さんによる「ミズワタクチビルケイソウの殺藻方法」です。

外来種のミズワタクチビルケイソウはアユや水生昆虫の生息環境への悪影響が懸念されている。本種の分布拡大には遊漁者および研究者などの移動が関与していることに着目し、加熱した水道水、エタノール溶液および塩水で本種を殺藻する条件を明らかにした。得られた成果を、釣り人等向け啓発リーフレットを作成し、水産庁等のホームページで公開するなど、これまでの研究や普及をとおして地域の水産業の発展に大きく貢献するものと認められる。

どれも素晴らしい研究で、地域で奮闘している水産試験場の研究者の皆様に改めて敬意を表したいと思います。本日はおめでとうございます。以上で講評を終わります。

令和5年10月3日

令和5年度全国水産試験場長会会長賞表彰審査委員会審査結果報告書

全国水産試験場長会  
会長 長島 浩 様

全国水産試験場長会  
優秀研究業績表彰審査委員会  
審査委員長 木村 稔

令和5年度全国水産試験場長会会長賞表彰候補に推薦された3業績について、下記のとおり審査委員会を開催して審査した結果を報告します。

記

開催日時：令和5年10月3日（火）13:30～15:00

開催方法：リモート併用による各研究担当者からの推薦業績の説明と審査

出席者：

審査委員

- 委員長 木村 稔（北海道ブロック：北海道立総合研究機構水産研究本部 本部長）
- 委員 浅野 勝志（東北ブロック：宮城県水産技術総合センター 所長）
- 飯田 悦左（瀬戸内海ブロック：広島県立総合技術研究所 水産海洋技術センター長）
- 吉田 達（東北・北海道ブロック：青森県産業技術センター内水面研究所 所長）
- 阿部 浩樹（北部日本海ブロック：秋田県水産振興センター 所長）
- 中村 充志（西日本ブロック：宮崎県水産試験場内水面支場 支場長）

推薦ブロック幹事

- 海面 石田 敏一（西部日本海ブロック：福井県水産試験場 場長）
- 海面 岩橋 恵洋（東海ブロック：和歌山県水産試験場 場長）
- 内水面 小川 滋（関東・甲信越ブロック：長野県水産試験場 場長）

説明者

- 海面 船越 裕紀（西部日本海ブロック：京都府農林水産技術センター海洋センター・研究部 副主査）
- 海面 日比野 学（東海ブロック：愛知県水産試験場 漁業生産研究所 主任研究員）
- 内水面 川之辺 素一（関東・甲信越ブロック：長野県水産試験場諏訪支場 支場長）

オブザーバー

- 会長 長島 浩（兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター 所長）
- 事務局 宮原 一隆（同 主席研究員兼課長）
- 副会長 外薗 博人（鹿児島県水産技術センター 所長）
- 特別幹事 中野 卓（東京都島しょ農林水産総合センター 所長）
- 小野 淳（同 振興企画室 室長）
- 幹事県等 安田 広志（宮崎県水産試験場 副場長：WEB参加）
- 石垣 要吾（岐阜県水産研究所 所長）
- 上島 剛（長野県水産試験場 環境部長兼支場長）
- 蒲原 聡（前愛知県水産試験場 日本水産学会連携担当）

審査結果：

海面部会 2 ブロックと内水面部会 1 ブロックから推薦のあった以下の 3 業績について、推薦理由を各推薦ブロック幹事から、推薦業績を各研究担当者からそれぞれ説明を受けて審査した結果、いずれも令和 5 年度全国水産試験場長会会長賞表彰を受けるにふさわしい業績と判断されました。

(1) 海面部会 西部日本海ブロック

「閉鎖性海域における冬季の中層貧酸素発生機構の解明」

— 二枚貝養殖の被害防止に向けて —

京都府農林水産技術センター海洋センター・研究部

副主査 船越 裕紀

選考理由：

京都府久美浜湾の貧酸素水塊の発生・解消は偶発的な現象ではなく、メカニズムが存在することを明らかにした点により、将来的にこれらへの対応が可能になると期待される。また、冬の継続的な淡水供給が成層の維持と貧酸素化に影響することを明確に示した点については、久美浜湾だけではなく、環境変動（温暖化・大雨等）によって他海域でも発生し得る普遍的成果であり、地域の水産業の発展に大きく貢献するものと認められる。

(2) 海面部会 東海ブロック

「愛知県海域におけるアサリ資源の減少要因と回復策に関する研究」

愛知県水産試験場 漁業生産研究所

主任研究員 日比野 学

選考理由：

愛知県の重要水産資源であるアサリ資源の減少要因について餌料環境の影響が大きいことを明らかにするとともに、砕石による漁場造成の事業化や生分解性網袋を活用した漁場管理の成果も期待されている。さらに、研究成果を漁業者へ積極的にフィードバックすることで漁業現場に浸透し、資源管理や漁場管理に活用されている。こうした一連の取組は、アサリ資源回復のモデルケースとなることが期待され、地域の水産業の発展に大きく貢献するものと認められる。

(3) 内水面部会 関東・甲信越ブロック

「ミズワタクチビルケイソウの殺藻方法」

長野県水産試験場諏訪支場

支場長 川之辺 素一

選考理由：

外来種のミズワタクチビルケイソウはアユや水生昆虫の生息環境への悪影響が懸念されている。本種の分布拡大には遊漁者および研究者などの移動が関与していることに着目し、加熱した水道水、エタノール溶液および塩水で本種を殺藻する条件を明らかにした。得られた成果を、釣り人等向け啓発リーフレットを作成し、水産庁等のホームページで公開するなど、これまでの研究や普及をとおして地域の水産業の発展に大きく貢献するものと認められる。

## (2) 副賞贈呈・挨拶

地域水産試験研究等促進奨励会代表 和田 時夫

皆様、こんにちは。全国水産技術協会の和田時夫でございます。まず、令和5年度の全国水産試験場長会大会が開催されますことを、心よりお祝い申し上げます。

本日は、地域水産試験研究等促進奨励会の代表である川口恭一の出席がかなわず、代わって私から副賞をお贈りいたします。

以前は、私ども水産技術協会の事業として副賞を贈呈させていただいて参りましたが、令和2年度からは、水産業の振興や技術の開発・普及などを行う全国団体にも趣旨にご賛同いただき、奨励会として副賞を贈呈させていただいております。お陰様で、参加団体も今では資料4-2にお示ししている13団体に発展しております。

これらの団体は、それぞれ、水産振興、水産基盤整備、漁場環境保全、資源造成、水産業のスマート化・デジタル化、地球温暖化対策などに取組んでおりますが、取組を進める上では、現場での都道府県水産試験研究機関の皆様のご支援・ご協力が何よりも重要でございます。場長会の皆様のご理解とご支援に改めてお礼申し上げるとともに、副賞の贈呈を通じて、場長会の試験研究の促進と成果の普及のお取組に協賛できますことを大変うれしく存じております。

今後は、地球温暖化対策に関連して、ブルーカーボンの導入や再生可能エネルギーの利用、洋上風力発電と漁業の協調・共生なども重要なテーマとなって参ります。これらも含めまして、これからも、よろしくお付き合いを賜りますようお願い申し上げます。

全国水産試験場長会の皆様

地域水産業等を対象に業務を展開する全国的な水産関係団体は、水産試験場等の試験研究成果等を基礎とし、これら機関と連携して業務展開を図ってきました。こうしたなか、気候変動や国際情勢の変化を背景に水産物の需給関係が厳しさを増す一方、水産業におけるカーボンニュートラルの実現や DX 化の推進が課題となっており、両者の緊密かつ円滑な連携協力が一層重要であると考えています。

このため下表の水産関係団体が「地域水産試験研究等促進奨励会」を構成し、一般社団法人全国水産技術協会が行ってきた「優秀研究業績表彰」に対する事業を継承発展させ実施してきているところです。

今年度も下表に掲載する水産関係団体により、引き続き優秀研究業績表彰に対する副賞贈呈の事業を実施することといたしました（参考：優秀研究業績表彰副賞＝図書券 10 万円/件×3 件）。

場長会の皆様方には、このような趣旨及び経過をご理解賜り、引き続き一層の連携協力を頂きますようよろしくお願い申し上げます。

令和 5 年 11 月 16 日

地域水産試験研究等促進奨励会代表 川口恭一

地域水産試験研究等促進奨励会の構成団体

団体名	ホームページ URL
公益財団法人 海と渚環境美化・油濁対策機構	<a href="http://www.umitonagisa.or.jp/">http://www.umitonagisa.or.jp/</a>
公益財団法人 海外漁業協力財団	<a href="http://www.ofcf.or.jp/">http://www.ofcf.or.jp/</a>
一般社団法人 水産土木建設技術センター	<a href="https://www.fidec.or.jp/">https://www.fidec.or.jp/</a>
一般社団法人 漁業情報サービスセンター	<a href="http://www.jafic.or.jp">http://www.jafic.or.jp</a>
全国漁業協同組合連合会	<a href="http://www.zengyoren.or.jp/">http://www.zengyoren.or.jp/</a>
一般社団法人 全国水産技術協会	<a href="http://www.jfsta.or.jp">http://www.jfsta.or.jp</a>
一般財団法人 漁港漁場漁村総合研究所	<a href="http://www.jific.or.jp/">http://www.jific.or.jp/</a>
全国内水面漁業協同組合連合会	<a href="http://www.naisuimen.or.jp">http://www.naisuimen.or.jp</a>
公益社団法人 全国豊かな海づくり推進協会	<a href="http://www.yutakanaumi.jp/">http://www.yutakanaumi.jp/</a>
一般社団法人 大日本水産会	<a href="http://www.suisankai.or.jp">http://www.suisankai.or.jp</a>
一般財団法人 東京水産振興会	<a href="http://www.suisan-shinkou.or.jp/">http://www.suisan-shinkou.or.jp/</a>
公益社団法人 日本水産資源保護協会	<a href="http://www.fish-jfrea.jp/">http://www.fish-jfrea.jp/</a>
一般社団法人 マリノフォーラム 21	<a href="https://www.mf21.or.jp">https://www.mf21.or.jp</a>
事務局	(一社) 全国水産技術協会 (横山)

(令和 5 年 11 月 16 日現在、五十音順)